

ろーたす
子どもの歩み

中学三年生
Cくん

不登校の理由

- ・ 家庭の環境が不安定。

本人のパーソナリティ

小学校高学年から不登校

小学校の低学年頃から五月雨登校で、やがて不登校に。自宅ではゲーム三昧の日々であった。たまに学校に行くも、長くは続かず。コミュニケーションが苦手、勘違いしたり・されたりでトラブルが頻発。こだわりも強い。発達検査を受けたりメンタルクリニックにも通院歴なし。

母が夜中自宅に居ない

母子家庭で、姉と本人の3人暮らし。日中母は仕事に出掛け、帰宅後は知人宅へ。夜間は、本人と姉の2人で就寝するというのが日課であった。そのため、朝方までゲームをしたり、入浴や食習慣が適切でなかった。愛着障害も疑われた。

生活習慣が身につけていない

先にも述べたように、生活習慣が身につけてなかった。朝方までゲームをしていて日中は寝ている。食事はコンビニ弁当と2リットルのペットボトルジュース。水分はほとんどジュースで補う。入浴や歯磨きは3日に1度が当たり前になっていた。

Aくんのストーリー

2019年9月～2020年3月

生活リズムが整わずフリースクールへ通うリズムも整わず。調子の良い週は学習に一生懸命取り組めるなど頑張っていた。リズムが崩れている週は、教室に来てずっと寝ていることも。かなり寂しがりで、スタッフの送迎があるとかなり喜んで自宅から出てきていた。学校には一切行かず。

2020年4月～7月

コロナ禍の影響で中学校で分散登校がスタート。フリースクールスタッフと、学校と一緒に行き担任の先生と面談したり、授業終了後の学校に登校したりしながら徐々に学校に慣れることを行う。徐々に登校時間を増やしていき、1学期中間テストも受けることができた。コロナ禍による分散登校、父の押し出しと家庭の安定。担任の先生が非常に熱心に生徒に関わってくれたことが再登校できた大きな要因であると感じる。

2019年9月ごろ

本人小学6年生時に利用開始。母と一緒に面談へ。スタッフと意気投合し、利用を開始することになる。

2020年3月

コロナ禍に突入。いままでの自宅を引っ越しこの頃から別居中の父と同居することに。本人の生活習慣が徐々に安定し始める。

2020年8月

フリースクールの行事でキャンプに参加。そのキャンプの中で、
①仲間と一緒に何かを成し遂げること
②自分で考え行動すること
上記2つを学び、大きく成長した。

2020年9月

2学期スタート時から、通常通り学校に登校。無遅刻・無欠席で楽しく通えるように。学習や学内活動も意欲的に取り組めるようになった。

Cくんの対応で大事にしたこと

1対1の関わりでラポール形成に注力

家庭環境が不安定であったため、スタッフと生徒の1対1の関わりでラポール形成に注力した。往復の道のりの送迎や、食事を買いに行くときなど、特別な方法ではなく、とにかく”2人で一緒に居る時間”を大事にした。

結果に囚われず、本人にとっての1歩を評価

ラポールを形成する中で、大きく目に見える成果はみられないものである。しかしその中でも”本人にとっての1歩”を重要視した。いつもより5分早く起きた。いつもより1問問題を多く解いた。など、本人の頑張りにフォーカスし、評価した。

父・学校と密に連携

スタッフが中学の登校に付き添ったり、父や担任の先生と密に連携することで、生徒を取り巻く周りの大人全員が足並みを揃えて生徒に対応することを大事にした。周りの足並みが揃わなければ、子どもは混乱をきたす。